



ダム湖の入り江の隠れ里

夏はホタル、秋は紅葉など四季折々の影を映すダム湖の姿は美しい。



ダム湖を形成する津賀ダムは大正から国道439号線を通り、橋原方面に向かって約12kmのところにある。ダムからさらに

上流に向けて約1km上った対岸の入り江の山の端にひっそりと隠れるように下道集落はある。湖面近くの民家から階段状に水田、集落が開け、戸数はわずかに14戸の小さな里ながら、6月頃にはヤイロ鳥の鳴き声が聞こえ、春には集落全体がシバザクラなどの花に包まれ桃源郷のような趣がある。

湖水を眺めながら散歩のできるウォーキングトレイル



集落の入口付近には隣の津井集落まで続く昔の森林軌道を整備した全長7.3kmのウォーキングトレイル(遊歩道)の

入口がある。湖水の眺めを楽しみながら散歩ができるとあって、春や秋には人気の観光スポットとなっている。

奇祭「飯食い祭」が行われていた春日神社。湖水近くの民家を過ぎ、さらに急

こう配の町道をぐんぐん上り詰めると急に視界が開け、当たり一面に田園風景が拡がり集落の中心部に至る。その中央部に



に春日神社がある。神社では11月23日に行われる「霜月祭」の神事のあと、祭りを仕切った当家庭へ移動し、集落の人やお客さんに大盛りの飯を供応する奇祭「飯食い祭」が行われていた。昭和38年まで行われていたが、今は残念ながら中断しているそう。当時、使用されていた膳や椀を区長さんに拝見させてもらった。

山里で群れ泳ぐ金魚。神社、入口の門脇さんが金魚を飼っているというので見せてもらった。200匹余りをハウスと池で飼っているという。



集落は二つの谷から流れ込む水に恵まれ、たいていの家は防火用の池があり、趣味もかねて鯉や、金魚を飼っているという。水田に水を張ってある間は水田で飼育し、稲刈り時分になると、池に移す。門脇さんによるとえさ代と



手間がばかにならないと苦笑いするが、山里での緩やかな時の流れを楽しむ心のゆとりが感じられた。

町の人口 (9月1日現在)	(男性)	9,617人
	(女性)	10,778人
	(計)	20,395人
	(世帯数)	8,826世帯

平均年齢
(9月1日現在)

(男性)	49.0歳
(女性)	53.8歳
(全体)	51.5歳

四万十川流域の水質状況
四万十川具同地点

項目	単位	基準値	7月8日
水温	℃	-	26.9
pH		6.5~8.5	8.0
BOD	mg/l	1.0以下	<0.5
SS	mg/l	25以下	2
DO	mg/l	7.5以下	9.0
大腸菌群数	MPN/100ml	50以下	1700

注意1)測定値は全て速報値です。注意2)基準値は年平均値を対象とした数値です。(国土交通省中村河川国道事務所提供)

●四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>